3 年日本史 A　5 月課題①：教科書p.28～29 を見て，下の空欄1～9 を埋めなさい。

日本史Ａ（課題プリントNo.１）

年	組	番	名前

1　19 世紀の世界とアジア（教 p.28-29）

[1]　資本主義と植民地

・18 世紀後半のイギリスでは，工場や交通機関において，新しい動力として蒸気機関が用いられた。それは機械による大量生産への技術革新であり，こうした動きを【1.　　】とよぶ。これ以降，産業の中心は，農業から工業へと転換するとともに，【2.　　】を基礎とする国民経済が形成された。

・こうした発展の背景には，植民地からの原材料輸入と植民地への製品輸出であった。多くの植民地は，安い労働力に支えられた原料供給特定の農耕産物を中心とした経済体制（＝【3.　　】）がおしつけられ，プランテーションによる生産が広く展開された。こうしたかたよった産業構造は，こんにちでも旧植民地の経済的自立をさまたげている（＝【4.　　】）

[2]　列強のアジア再進出

・15 世紀にはじまったヨーロッパの植民地獲得は，「大航海時代」とよばれ，17 世紀後半には一応の収束をむかえた。ヨーロッパ諸国は植民地の維持に力をそそいだため，積極的な拡大政策はとらなくなった。一方，東アジア諸国では海禁政策がとられ，海外への積極的な進出はみられなかった。江戸幕府によるキリシタン禁制や貿易統制などのいわゆる【5.　　】でも，こうした東アジア諸国の対外政策との関連で実施あれたものであった。

・しかし 18 世紀後半から 19 世紀にかけて，ヨーロッパ列強の関心はふたたび東アジアへと向かった。とりわけ，シベリア開発を進めたロシアや，中国からの茶葉輸入を増やしていたイギリスのうごきは，やがて日本を含む東アジア全体に大きな影響を与えることになった。

・フランスとの植民地戦争に勝利したイギリスは，大英帝国とも呼ばれる広大な植民地と海上権獲得して，新大陸や太平洋地域へとさらに進出した。イギリスは自由貿易を掲げて，機械によって大量生産された製品を輸出し，勢力を拡大していったが，その背景には強大な軍事力があり，時に進出先との衝突を招いた。1840 年にイギリスと清国との間に勃発した【6.　　】はその一例である。

・また，19 世紀初頭には，欧米諸国が北大西洋で捕鯨活動をはじめた。このため，捕鯨船の寄港地を求めて，1820 年代以降，日本沿岸に欧米の船が頻繁に出没した。こうしたうごきを背景に，1853 年にアメリカの【7.　　】艦隊が【8.　　】に，ロシアの【9.　　】が長崎へと来航したのである。

担当：藤井